

観光振興に対する地域住民理解のための ツールの開発に関する研究

— 沖縄観光副読本 —

非公開

地域住民の観光に対する理解がなかなか得られないことが、地域の観光振興や観光産業への人材確保、育成にネックになっているという問題意識から、本研究では、子供を対象とした観光を理解する教材を作成して、学校教育の段階から観光振興に対する理解を高めようとすることを目的とする。

そのケーススタディとして、沖縄での観光副読本作成をとりあげ、副読本作成にあたっての配慮事項、副読本の構成内容(骨子)についてとりまとめた。本研究の成果を受けて、沖縄県では小学校高学年向けの観光副読本作成の取り組みにつながった。このような試みは既存事例に少なく、全国的なモデルとなるものである。

●岩佐吉郎 小濱 哲 (名桜大学)

本編 観光振興に対する地域住民理解のためのツールの開発 に関する研究

— 沖縄観光副読本 —

目次 ◆◆◆◆

1. 本研究の背景と目的
2. 既存事例の整理
3. 副読本作成にあたっての配慮事項
4. 副読本の内容構成

第1章 「観光」ってなんだろう？

1. 人は旅に出たい
2. 人はどんなところへ旅をする

第2章 沖縄にはたくさん人が来る

1. どこから、どのくらい人が来るんだろう
2. 沖縄の見るところと魅力
3. 沖縄を見てもらうことの意義

第3章 沖縄の観光産業と働く人たち

1. 沖縄経済と観光産業
2. 人を楽しませるために働く人がいる
3. 観光を発展させるための役所の仕事

第4章 私たちと観光

1. 人を迎えることの基本
2. 街も海もきれいにする、これもあいさつ
3. どこに座る？

5. 本研究の成果と今後の取り組み

1. 本研究の背景と目的

沖縄県では、平成14年度より新しい沖縄振興計画ならびに第4次沖縄県観光振興基本計画がスタートして、観光産業を地域のリーディング産業として全県的な振興への積極的な取り組みが進められている。

しかし、沖縄観光が地域に与える影響は大きいにもかかわらず、観光あるいは観光産業への県民の理解は乏しく、また地域経済を支える重要な産業であるにもかかわらず、優秀な人材が集まりにくく、離職率が高くなっている。さらに観光産業従事者の社会的ステータスが低いことや、職業としての理解が足りないことなど、主力産業としての基盤の弱さがみられる。

一方、当財団が行った「沖縄における旅行・観光の経済波及効果調査」では、沖縄を訪れる観光客の消費が地域経済にどのような波及効果を及ぼしているかを明らかにして、広く県民の理解を得た。しかし、その内容は子供たちが理解するには難しく、子供向けの副読本の作成について県観光リゾート局（現：観光商工部）から要請を受けていた。

そこで本研究は、こうした沖縄県の状況を鑑みて、子供を対象として沖縄観光を理解する教材を作成して、観光振興に対する県民理解を高めようとするものであり、全国的にもこのような試みは少なく、全国的なモデルとなるものである。

2. 既存事例の整理

子供向けの観光副読本の既存事例として、海外の例では「カリブ観光教本」（邦訳：財団法人国際観光サービスセンター）がある。カリブ観光機構（CTO: Caribbean Tourism Organization）が加盟する諸国の子供たちに学校教育で観光理解を推進するためのテキストとして作成されている。同書の編纂、翻訳の経費はUNDP Japan Fundから拠出されている。同書は、子供にそのまま見せる教科書としてではなく、教員向けにどういった内容を教えるか、「基本概念、単元ごとの指導目標、得られる技能（成果）、指導内容、要領」について細かく解説されている。

「カリブ観光教本」目次（高学年9～11歳向け）

1. 観光の歴史／2. 観光の形態／3. 観光の商品／4. 観光の経済効果／5. 持続可能な観光／6. 観光文化／7. 観光による職業／8. 観光支援サービス

国内の観光副読本の例では、宮崎県と財団法人みやざき観光コンベンション協会が平成16年5月に作成した「宮崎観光副読本：わたしたちにできることってなあに？」がある。17.5万部印刷され、小学校4年以上と中・高校全学年に配布されて、数多くの学校で授業に活用されている。

同書の内容は、観光の意義、県内の観光魅力の紹介、県民性、ホスピタリティの重要性、観光産業の紹介で構成されている。

また、作成にあたっては、たえず教育委員会の支援をうけたことが、作成後すぐに学校教育に取り入れられた最大の要因であった。

「宮崎観光副読本」目次

1. 「観光」って何だろう？／2. 宮崎の新しい国際会議都市づくり／3. 宮崎は日本一のスポーツランド！／4. 神話・伝説にあふれる宮崎／5. 美しく豊かな自然は宮崎の宝／おらかでやさしい宮崎の人／7. 「ホスピタリティ」って何だろう？／8. 「観光」という仕事／9. もっと知ろう！宮崎のこと

沖縄県内の事例では、観光の副読本はなく、県の教育庁が中心となって地域社会教育の副読本（社会科の副読本）がいくつか作成されている。小学4年生向けに「ひらけゆく沖縄県」、5年生向けに「沖縄県の産業と環境」、6年生向けに「沖縄県の歴史と政治」である。

このほかでは、いくつかの市町村で郷土史や自然と地理についての本が作成されて、授業でも採用されている。

3. 副読本作成にあたっての配慮事項

本研究では、作成する副読本が、学校の授業で実際に使用されることを目標としている。

そのためには以下の点に配慮すべき必要がある。

①教育庁との連携した作成が必要

観光サイドから一方的に作成して「使って下さい」と言われても、授業の副読本としての採用は困難と教育庁から強い要望があり、内容の検討段階から教育庁サイドの参加も要請することになった。

宮崎県の例でも、同様な取り組みで学校教育に実際に使用されている。

②観光ガイドブック的な内容は避ける

子供たちに興味をもたせ、かつ問題意識を植えつけることが必要で、県内の観光魅力を紹介するガイドブック的なものは適切でない。

県内市町村が作成する既存例のような郷土史や

自然、歴史文化の紹介では採用されない。

③子供にもわかる表現、内容を工夫する必要がある

当然のことながら、大人が通常使っている表現では子供に理解できず、特に観光業界の専門用語など含めて子供に理解できる表現に工夫する必要がある。また、挿絵やグラフ、投げかけ表現なども活用する。

④まとめ方の様式の工夫

大きくは、教師用に指導要領をまとめる“カリブ方式”と、直接子供たちに配布して読んでもらう“宮崎方式”に分かれる。沖縄では後者の“宮崎方式”でまとめることとした。ただし、訴えたいテーマを質問形式で投げかけ疑問や興味を持たせる工夫をする。

4. 副読本の内容構成

とりまとめにあたっての配慮事項に留意して、副読本の内容構成は以下とする。

第1章 「観光」ってなんだろう？

1. 人は旅に出たい

自分の生活圏を離れて、直接見聞きする観光の意義、効果を平易に解説する。人が旅をすることの重要性、人間にとっての旅について示す。

- 人にとって旅行すること
 - ・旅行って何？
 - ・どういう時、旅行に行く？
 - ・どういうことが楽しみ？
- なぜ人は旅をする？
 - ・観光旅行の動機、目的
 - ・観光旅行の意義、効果

2. 人はどんなところへ旅をする

～日本や世界の観光地～

日本や世界の著名な観光地を紹介して、どういったところに人が旅をしているのかを紹介して、観光対象に対する生徒の視野が広がることをねらいとする。

- 世界の観光地
 - ・エジプトのスフィンクス、ピラミッド
 - ・中国の万里の長城 など
- 日本の観光地
 - ・富士山、阿蘇
 - ・京都、奈良 など

- 身近な観光地
 - ・山登り、ハイキング など
- みんなはどこへ行った？ ー行きたい観光地とは？
 - ・国や地域が持つ自然と歴史・文化
 - ・普段できない体験

第2章 沖縄にはたくさん人が来る

1. どこから、どのくらい人が来るんだろう

沖縄観光の現状を、数字を用いて解説し、復帰以来現在までの観光の状況をグラフ等で説明する。

- 今、どれだけの観光客が沖縄に来ている？
 - ・過去と今
 - ・510万人の数の大きさは？
- どんな人が来ている？
 - ・こんなにリピーターが来ている
 - ・沖縄に対する感想は（満足度調査から）
 - ・外国人の観光客はまだこれから

2. 沖縄の見えるところと魅力

沖縄の持つ魅力とその優位性について整理するとともに、沖縄の代表的な観光地を自然観光資源や人文観光資源、宿泊施設や観光施設等を紹介し、その特徴を記述する。

- なぜ、そんなに来ているんだろう？
 - ・沖縄旅行の魅力、目的は
 - ・自然と歴史・文化
 - ・それだけ？（長寿や料理ほかは？）
- 沖縄の良いところ、悪いところ
 - ・沖縄自慢くらべ
 - ・沖縄いけないことリストづくり

3. 沖縄を見てもらうことの意義

観光客を受け入れることにより、沖縄の文化が発展し、沖縄への郷土愛や地域への誇りが高まることを、わかりやすく説明する。

- 観光客に沖縄の良さをみってもらうということ
 - ・外から来た人たちと地域の人たちの交流
 - ・沖縄を知ってもらうということ
 - ・沖縄の産業、経済への貢献
 - ・沖縄のことを褒めてもらう、羨ましがられるということ
- 私たちの沖縄の魅力を守り、育てる
 - ・どうしたらよい？

- ・ 沖縄の自然や歴史、文化をもっと知ろう
- ・ 沖縄のいいところをもっと大切にしよう

第3章 沖縄の観光産業と働く人たち

1. 沖縄経済と観光産業

沖縄県の経済に観光産業が大きく貢献していて、私たちの生活に、また一次、二次産業にも深く関わっていることを説明する。

- 沖縄のくらしと経済
- ・ 沖縄の産業構造と特性
- 観光産業と沖縄の経済

2. 人を楽しめるために働く人がいる

観光産業の種類とそこで働く人々について理解する。観光関連産業の職種や職務内容を解説し、どのような仕事があるかを説明する。

- 観光産業の仕事
- 観光産業で働く人たち

3. 観光を発展させるための役所の仕事

沖縄県や市町村が、観光に対してどのように取り組んでいるかを解説する。この中では、沖縄経済が観光に支えられていることや、街づくりの考え方として観光が用いられている様子などを説明する。

- 観光産業を発展させるための取り組み
- ・ 空港や港、道路、公園の役割
- ・ きれいな環境をつくる取り組み
- 民間の仕事と役所の仕事
- ・ 民間の仕事
- ・ 役所の仕事
- 観光発展の目的
- ・ よりたくさんの人に来てもらう、沖縄の良さを知ってもらう
- ・ 沖縄の観光産業が発展できるようにする
- ・ 美しい沖縄、住みよい沖縄をつくっていく

第4章 私たちと観光

1. 人を迎えることの基本

あいさつをする場所、あいさつの言葉、礼の仕方、部屋の入り方、電話など「あいさつ」にまつわるさまざまな事柄を総括的に示し、時と場合によるあいさつの方法などについて学ぶ。

- マナーはあいさつから
- ・ あいさつが基本
- あいさつをする場所、あいさつの言葉、礼の仕方、部屋の入り方、電話など「あいさつ」にまつわるさまざまなあいさつを学ぶ。

2. 街も海もきれいにする、これもあいさつ

気持ちよく生活することと、気持ちよく滞在することが同じであることを示す。人を迎える時に、気を遣うことが、自分の周りだけでなく、地域全体であることや、普段の生活の中で気を配らなければならない事項について学ぶ。

3. どこに座る?

座席の上座下座、エレベータの乗る位置、車の座席の順序など、日常生活で接するさまざまな場面で、相手に対して敬意の表し方があることを学ぶ。

- 「相手に敬意を表すこと」
- ・ 座席の上座下座、エレベータの乗る位置、車座席の順序など

5. 本研究の成果と今後の取り組み

本研究においては、実用化に向けた“たたき台”としての観光副読本の内容構成(試案)を作成した。

県では平成15年度から観光人材育成事業に取り組んでおり、その中で県民の観光理解を推進していくことが検討されている。その具体的な施策として、学校教育の段階で観光理解を行っていく方向性が示され、観光副読本の作成に取り組むことになった。

本研究成果をうけて、財団法人沖縄観光コンベンションビューロー(OCVB)が、県観光商工部と県教育庁に働きかけて、今後は共同で、学校教育の副読本として正式に活用するための検討を引き続き進めていくこととなった。

観光産業に対して地域住民からなかなか理解が得られない、こうした問題は全国の観光地に共通しており、その先鞭をつける意味でも、沖縄県における観光副読本の作成は重要である。

本研究が活かされて、実現化に向けて着々と取り組みがすすめられていることが、本研究の最大の成果である。